

## 瀬戸内タウンミーティング（本庄地区）

平成 22 年 11 月 15 日（月）19 時～21 時 10 分

本庄コミュニティセンター

参加者：男性 13 人、女性 3 人、計 16 人

### 市民から出た意見と市長の回答

・佐井田の道が狭く、バイパス道路をつくると説明を受けたが、今年度まったく進捗が無いように思う。交通量が多いところなので早めにやってもらいたい。また、瀬戸内バイクビズの取り組みと絡めて、いい歩道、自転車道を作ってもらいたい。

（市長）進捗についてはわからないので確認したい。車に乗れない中学生、高校生などは自転車を通うしか方法が無いので、安全な道をつくっていく必要がある。自転車専用道路の整備については、財源の問題があるので国の施策など、市の負担が少ない方法を研究したい。

・我が家では生ごみは全てコンポストで処理し、ざつ紙も資源化物回収にまわしているの、燃えるごみはその他のプラスチックばかり。その他のプラスチックを減らす取り組みができないと、ごみの減量は難しいのではないかと。

（市長）その他のプラスチックのリサイクルは、赤磐市が取り組んでいる。しかし、瀬戸内市で実施しようとする市民の皆さんに負担をお願いしなくてはならないことや、関係者との調整が必要である。なるべく負担をかけない方法を来年度中に研究をしたい。また、出されているごみの種類を調べたら、生ごみも依然として多く、市民の意識を高めることで減量が可能であると思う。引き続きご協力をお願いしたい。

・若い人が都市部に出て行って帰ってこない。近くに工場を誘致してほしい。

（市長）今は農工団地に指定している豆田の土地を売るために準備を進めている。まだ造成はしていないが、誘致の話があればすぐに造成できるように考えている。その後、新たな工業団地を指定して誘致に力を入れたい。また、ブルーラインの無料化により、利便性が高まっている。瀬戸内市内に工場が無くてもこの辺りに住んで通う、という選択肢が生まれてくると思う。

・米の相場が安く、このままでは誰も米を作らなくなってしまう。何とかしてもらいたい。

(市長)相場については、大きな批判が政府に対して出ると思う。また、TPPの影響も考えなくてはならない。かつて、GATT ウルグアイラウンド後に起きた農業生産基盤強化のための事業が今回の TPP 導入に際しても起こると思う。このときにいかに強い経営基盤をつくるか、を今から考えなくてはならない。

・病院について、医師の確保が最も大切だと思うが、見通しは。

(市長)いい建物ができても医師がいなければ意味が無い。競争力を持たせる運営方法を検討し、いい医師が来てくれる病院としたい。

・市民病院の薬局が道路に面していたり、待ち時間が長かったりと不便である。以前のように院内薬局に戻せないか。

(市長)院外処方薬は薬の在庫コストなど、経営上の問題を解決するために導入した。病院で雇用していた薬剤師は入院患者向けの調剤などを行っている。元に戻すことは考えにくい。また待ち時間を減らすよう病院にも話をする。

・下水道が来ていないことから、子どもが他の地区に家を建てた、という話を聞く。

(市長)浄化槽の設置費用は高いと感じるか。

・高い。概ね100万~150万。また、市外の話だが高齢者だけの世帯では下水道に接続しない人もいると聞く。

(市長)この地区の下水道の見通しは不透明なので、負担を減らし浄化槽での対応を検討している。

・防災無線で流れる内容がまったく聞こえない。戸別受信機を増やしてほしい。

(市長)基本的には防災無線はサイレンを流すために設計されていることを理解してもらいたい。受信機は1台4~5万円かかり、国や県の補助が無いので増台は難しい。

・災害時に、光ファイバ網を使ったお知らせはできないか。

(市長)携帯電話メールを使ったお知らせは若い人には有効と思う。金をかけずに役に立つ体制づくりをしたい。ホームページを使った広報も考える。